

令和5年度 直方市総合教育会議 議事録（要点筆記）

1. 開会及び閉会に関する事項

(1) 日 時 令和5年11月14日（火曜日）

開 会 15時30分

閉 会 17時05分

(2) 場 所 直方市役所 5階 503・504 会議室

2. 出席者及び欠席委員の氏名

(1) 出席者

直 方 市 長 大塚 進弘

直 方 市 教 育 長 山本 栄司

直方市教育委員 篠田 尊徳

直方市教育委員 中野 昭子

直方市教育委員 阿部 英子

直方市教育委員 内藤 誠治

(2) 欠席者

なし

3. 会議に出席した者の氏名

事務局

直 方 市 副 市 長 秋吉 恭子

教 育 部 長 熊井 康之

企 画 経 営 課 長 山中 伸朗

財 政 課 長 高松 幸一

教 育 総 務 課 長 松本 直生

学 校 教 育 課 長 石松 敏幸

学校管理課管理主事 林 教司

教 育 総 務 係 長 梅田 賢一

教 育 総 務 係 清水 善浩（書記）

4. 会議式次第

○開会

・大塚市長あいさつ

令和 5 年度の総合教育会議です。私が市長になった令和元年から教育大綱の見直しを図り、総合教育会議の開催が始まりました。開催の度に未来を拓くためのご意見を皆様から伺っています。過去の議題では、学校給食、学校規模の適正化を取り上げました。コロナ禍で傷んだ状況を踏まえ、教育大綱にありますように、未来を拓き子供たちに確かな学力を身に付けてもらうために、子供たちの学力をどのようにして支えることができるかということをも市長部局において考えています。電子黒板等の様々な予算を措置しながら先生達の負担を軽減できるよう取り組んできました。この様なことを踏まえ、教育委員の皆様と議論します。忌憚のないご意見をお願いします。

・山本教育長あいさつ

市長と教育委員の意見を交わす場を設けていただいたことにお礼申し上げます。GIGA スクール構想実現に向けた ICT 機器の予算措置をして頂き感謝申し上げます。各学校から電子黒板の設置希望が高く、今年度中に全学校全クラスに設置完了予定です。本日、事務局からいくつかの事柄について説明があります。よろしくお願いします。

○議事

議題「学力向上の取り組みについて」

(1) 学力の実態 [全国学力・学習状況調査結果から]

- ・直方市と福岡県・全国との比較（小 6、中 3…国語、算数・数学）
- ・令和元年から令和 5 年の間の推移（小 6、中 3…国語、算数・数学）
- ・3 年間の学力の推移（現小 6 基準…国語、算数 現中 3 基準…国語・数学）

※詳細は資料参照

【委員の意見】

内藤委員 事務局から「頑張って学力を上げてきている」と説明がありましたが、10 年前の学力を示すデータはありますか。

教育長 約 15 年前から学力調査を実施しています。開始した当初より、僅かですが確実に少しずつ上がってきていると認識しています。しかしながら、全国平均と比べるとまだ及んでいません。

市長 説明より小学校でも学力が伸びているように見られますが、学力向上の取り

組みで成果が出ているかは数値的に判断し難いです。

石松課長 同一集団で見ると、より学力向上の取り組みの成果があり、学習していることが少しずつ身についてきていると認識しています。

市長 同一集団の経年変化で見た方が学力向上の成果がわかるということですね。

内藤委員 徹底反復学習はとても良いことです。算数が特に成果が出やすく、国語は長い取り組みが必要でしょう。

市長 小学校で徹底反復学習を始めたのは令和**3**年度ですね。

教育長 そうです。

市長 令和**3**年度から学力に変化は出てきていますね。

教育長 同一集団の経年変化を見ると確実に学力が上がってきているものの、他市の同学年と比べるとまだなところがあります。

市長 筑豊教育事務所管内である田川市や飯塚市などでは直方市よりも早い時期から陰山メソッドに取り組んでいると聞いています。先進的に取り組んでいる地域では着実に成果は出てきていますか。

石松課長 少しずつ学力が上がってきていると聞いています。

市長 早く県の学力に追いつけるようにしたいです。過去に教育長から徹底反復学習は集中力を養う効果があると説明を受けています。

教育長 ただ、思ったほど効果が出ない場合もあります。集中して勉強に取り組む姿勢を身に付けるために、徹底反復学習の時間を設けています。しかし、教育委員との学校訪問において、先生は子ども達に教えたがる傾向があるということが見えており、進め方次第では効果が出ないこともあります。徹底反復学習は教えて学力をつけるものではありません。そこで、先生達へ徹底反復学習の行い方を説明し、理解を浸透させています。これから効果が出るのではと思っています。

- 市長 内藤委員が「徹底反復学習の効果が出やすいのは算数」と言われましたが、国語の成績を上げる方法はどうでしょうか。
- 中野委員 学力向上委員会において「読解力の上達により算数の問題が解けるようになる」といった意見がありました。徹底反復学習に集中力を上げる効果があることは認識していますが、読解力を上げる効果がどの程度あるか私にはわかりません。
- 石松課長 徹底反復学習による読解力の効果について、客観的なデータはありませんが、教育現場にいました私個人の実感として話します。文章をしっかり読めることが読解力の第一歩になると考えています。徹底反復学習で音読を取り入れています。音読を繰り返すことで文章を確実に読めるようになると思います。私は、音読を通して、何が書かれているかという情景を子ども達に思い浮かべさせる指導を行ってきました。これが読解力に繋がると考えていますので、効果が全く無い訳ではないと考えています。
- 内藤委員 進学塾の小学校 6 年生への取組例になりますが、新聞のコラム欄を毎日音読し感想文を書かせているそうです。算数も問題を声に出して読んで理解させているそうです。時間が多く取れないからかもしれませんが、徹底反復学習の音読では字面だけを追っており、もう少し時間をかけると効果が出やすいかもしれません。もちろん、音読することはとても効果があると思っています。
- 教育長 徹底反復学習により読解力を身に付けるのは困難で、通常の授業で学習することが必要です。徹底反復学習は、学校で子ども達が授業に向けた集中力が無く学習意欲が足りていないことを感じて何とかしたいと考え、授業に集中して取り組む下地作りのために取り入れたものです。子どもたちは単純作業への反応が良く徹底反復学習に向いているのではないかと考え、ここから学習に集中できる素地を作ることとしました。読解力を身に付けることについては、後ほど議題に出ますが、先生の授業改善の項で説明します。全国学力・学習状況調査においては読解力が無いと算数の問題が解けなくなっていますので、読解力の向上は必要になっていると改めて認識しています。
- 市長 徹底反復学習は小学校全学年に対して行っているのでしょうか。何歳までに集中力を鍛えた方が良いのか分かりませんが、教育の成果を効果的に発現させるために、子ども達へ適切な時期に実施できることが望ましいでしょう。

ある塾では勉強の習熟度合に合わせたクラスでのカリキュラムに沿って授業を行っているとの意見がありました。学校で塾と同様に行うのは難しいところがある一方で、それを実現する工夫の余地があるのではないかと考えていますが、実際どうでしょうか。

石松課長 学校でも習熟度に沿った授業を行っています。

阿部委員 先日、ある中学校へ学校訪問を行いました。同一集団における学習の習熟度について、学年が上がるに連れて如実に上がっていることが見えました。先生に学力が上がった要因を質問したところ、基本的な学習は帯学習に因ることでした。小学校では徹底反復学習が集中力を高め、中学校では帯学習で基本を徹底させることで、取りこぼし無く学力を向上させることに必要と考えています。中学校の帯学習の導入時期が分からないので判断し難いのですが、小学校で徹底反復学習が定着したのと同様に中学校で帯学習が定着すると学力の向上に良い結果が出てくるのではないかと考えています。

市長 各中学校で同様に帯学習の取り組みを展開していると思いますが、各中学校で学力の伸びに違いはありますか。

石松課長 学力の伸びに大きな違いは見られません。

市長 小学校の徹底反復学習や中学校の帯学習を徹底すると学力向上に期待が持てそうですね。

篠田委員 先ほど「徹底反復学習で学習に対する集中力を高めている」と説明がありました。集中している子どもは次に何をすることが分かっているので自分で丸付けをしている一方で、集中できていない子どもは言われてから丸付け用のペンを出しています。授業に対してだけでなく何をすることについてもですが、授業に対し何を準備すれば良いのかに気づくことを朝一番に学べることはものすごく大事な時間になりますし、これが徹底反復学習の良さかと思います。事務局の説明より、子ども達の学力が年々向上していることが分かりました。これは先生の皆さまの努力の賜物と思っています。しかし、この説明では「4、5年生の学力が低すぎる」とも読めます。小学校高学年になってから学力向上の取り組みに力を入れるのではなく、小学校 3、4 年生に対する教育を徹底的にすることが学力の向上に必要だと思います。先生に依るのですが、私の経験では、勉強の面白さが分かるのは小学 3、4 年生の頃だと思います。

その当時は結論を出すのではなく多くの事に対し周りとの意見を交わし、それに関する気づきを貰いました。先生の配属について、高学年と低学年を手厚くすると相対的に中学年が薄くなりがちになるのではないかと懸念しています。中学年に対する取り組みを手厚くし、全国学力学習状況調査において最初の年度の得点を上げることで最終年度（小学 6 年生）の到達点も福岡県平均並みに上がっていくのではないのでしょうか。

市長 私がよく言っています「就学前教育から継ぎ目なくやっていく」という言葉に近い内容だと思います。子ども達をいつから学力向上のスタートラインに立たせるかが課題になるでしょう。小学校もしくは就学前からというできるだけ早くにスタートラインに立たせる取り組みにより、小学校の低学年から学習に取り組む姿勢が身に付くのかかもしれません。徹底反復学習の効果があるのであれば、早い時期から取り組むのはどうでしょうか。小学校中学年の成績を上げると高学年、そして中学校の成績もそのまま上がっていくのかかもしれません。中学年の成績を上げるために低学年については幼稚園や保育園にも並行してできることが何かあるかと思います。徹底反復学習の効果は先生の皆様の努力もありますが、小学校中学年の頃からどのように進めていくかも考えられるところです。

石松課長 皆さまの意見も今後の参考にします。

教育長 徹底反復学習の取り組みも授業改善も同じことが言えますが、学力の向上に対し各学年でしっかり取り組んでいます。その結果が説明の通りとなり、小学校の 6 年間でここまで引き上げてきました。小学 1 年生からの学習内容を振り返り、授業で教える内容を良くすることよりも、先ずは小学 1 年生の時から学習に向かう集中力を身に付けることで学習の成果が出るのではと考えました。難しいところではありますが、幼い時の家庭教育をはじめ、関係する総ての人々にあらゆる面で結びついていくことが子ども達の学力向上に繋がっていくのではないかと、思うところです。

市長 子ども達の学力向上にはいろいろな要素が絡んでいますので簡単ではありません。事務局から徹底反復学習の効果が出ているという報告でした。また、教育委員からの意見も参考にしてより良い取り組みとしてください。

(2) 学力向上の取り組み

○直方市学力向上重点取組

- ・先生同士の「授業づくりと板書の工夫」の共有とチェックリストの活用
- ・児童における「学校における集中力の育成」と「家庭学習の習慣化と内容の充実」

○ICT の活用

- ・児童生徒の活用状況
- ・先生の研修や教材の配備等

【委員の意見】

○直方市学力向上重点取組

中野委員 読解力に関してです。私は良書に親しむことが読解力の向上に効果があると考えています。素晴らしい本を読むことは大人になっても人生に良い影響があるでしょう。過去は学校の図書室に司書が居ていつも自由に出入りができ、本を持ち出して親しむことができましたが、直方市に限った話ではありませんが、今は鍵がかかって閉鎖的になっているため、子ども達が本に親しめる機会が減っていることを懸念しています。今の図書室の開放状況はどうなっていますでしょうか。

石松課長 小学校では、低学年において読書の時間を通常の時間割に組み込み図書室を利用しています。また休み時間に図書委員が図書室を開けて対応しています。各学校では原則、鍵をかけていることが多いですが、必要な時には解錠しています。なお、放課後は残ることができないので開室していません。

中野委員 学校は子ども達が本をどれくらい読んでいるか把握できていないですよ。小学校も中学校も休み時間を昔よりも短縮しています。今の小学校の休み時間は基本的に 5 分間です。休み時間にリフレッシュするには時間が足りないのではないのでしょうか。徹底反復学習に取り組むためや先生たちの働き方改革のため等の様々な理由から各学校は休み時間を定めていると思いますが、今の子ども達は時間に追われて学校生活を送っているように見えます。昔は先生が子ども達の様子を見ながら授業を進めていましたが、今はタイムキーパーにより時間を区切り、追い立てられて落ち着かなく感じる子ども達もいるのではないのでしょうか。テストの成績を上げることは学校の 1 つの目的になると思いますが、学校に通う子ども達が幸せや基本的な人間の感情を醸成する場所であることも目的であると思います。それらの目的に達するには、学校だけでなく家庭環境も必要と考えていますが、子ども達は「自分から勉強したい」と思うことで伸びる可能性があります。図書室が解放されていない

いことは教育に関わる者として子ども達に対し申し訳ないと思っています。

市長 事務局から諸般の事情があるとの説明がありましたが、中野委員から「放課後に誰かが図書室を管理して本を貸し出すことで子ども達が本に触れる機会を設けるのが良い」という意見がありました。子ども達の読書量を把握する運用になっていますでしょうか。

石松課長 本の貸出量の把握について、各学校で本の貸出をデータで管理しているため調査することは可能ですが、教育委員会では集約していないため直ぐに示すことは困難です。

市長 読書量や貸出量と読解力に相関関係があるという匿名化されたデータがあれば、もっと本を読ませようということに力を入れられるかもしれません。

教育長 近年は「図書離れ」と言われ、子ども達が本から遠ざかっている傾向にあります。実際、図書室は管理を優先して委員会活動で運営していますので、もう少し門戸を開いてもよいのかもしれません。
なお、徹底反復学習は朝の自習時間に行っており、少ないとの意見があった休み時間の中に無理やり押し込んでいるわけではありません。時間を守ることが苦手なクラスではそれに対し担任の判断でタイマーを使うといった工夫をしていますので、学校全体や市内全体で行っているわけではありません。

市長 授業チェックリストについてです。経験年数の短い先生同士の横展開に活用する場合、授業内容を誰かがチェックしその先生にフィードバックして改善させ、後日に改善されたことを確認する、といった **PDCA** のサイクルで運用していますか。

石松課長 管理職が日々授業参観する際の視点として、また、参観したことをもとにアドバイスする際の資料として、さらに、個々の授業研究の際の参考資料として活用しています。

阿部委員 徹底反復学習は集中力を高めるという説明がありましたが、1 時間目に入る前に「やっと終わった」と思っている小学生も多いように見られます。同じことを繰り返すことはとても大事ですが、毎日することで単なるルーティンとならないように気を付けて欲しいです。

教育長 徹底反復学習がマンネリ化してしまう懸念があることは認識しています。徹底反復学習の最も大切な点を理解している先生はマンネリ化にならないよう工夫しています。工夫の効果が出ている学校では、子ども達が疲れを見せずに授業の反応も良く 1 時間目の授業に繋がっています。これを目指していきたいです。

○ICT の活用

篠田委員 先日、ある中学校において ICT 活用の例を見ましたので話します。私の学生時代にこれがあれば理解が進んだのではないかと思うくらいに授業が興味深いものでした。上手に使って教えている授業がある一方、無理に ICT を使わない方がよいのではと思う授業があります。ICT 活用を進めようという方向性が出ていますので、現場の先生が言いにくいかもしれません。ICT 活用について取捨選択ができることも必要ではないかと思います。全国的な傾向として図形の面積に対する感覚が苦手と言われており、これを克服できれば成績が上がると考えています。ICT を活用し教えるのが良いのかそれとも無理に使わずに教えるのが良いのか、どちらにも可能性があると思います。ただ、活用方法によっては面白く引き込まれる授業ができる、とても可能性を秘めたものだと思っています。

市長 予算を付けると、本当に活用されているかどうかという目線で見ているところがあり、現場で適切な使い方をしてもらえるのが有り難いと思っています。国が示しています個別最適化という ICT 機器の良さを生かした利活用として、子ども達が道具を使いこなすスキルを磨き、その習熟度に応じて対応できるようにしてほしいです。

教育長 導入当初は「機器を使えばいい」という感覚で ICT の活用を理解し、今までにどの先生も採り入れたことのない機器を使い始めました。その結果、学校現場ではかなり試行錯誤しながら ICT 機器を授業に取り入れています。その理由は、自分の授業スタイルで教え易いように使ってしまうがちで、子供の理解の助けになっていないかもしれないからです。そのことに気づき、子どもが理解できるように ICT の活用について試行錯誤する段階にようやくなってきたように思われます。もし間違った使い方授業をすると、使わない方が効果的な授業になるのではないかとと言われてしまうでしょう。

市長 子供たちが苦手な事柄に目を輝かせて興味を持ってくれるとよいです。

- 教育長 ICT 活用の講師として大学の先生を招致したいと思っています。ICT 機器の使用について詳しい先生はいますが、機器の活用について説明できる先生はなかなか見つかりません。
- 阿部委員 クラス中の意見をまとめる際、「ロイロノート」で多くの意見を早くまとめて見られるように活用していたのは良かったです。
- 教育長 子ども達に貸し出しているタブレットに教育用ソフト「ロイロノート」をインストールしました。「ロイロノート」の認定を受けた学校の先生を講師として研修会を開催したところとても好評でした。私たちもこのレベルで活用できるようにしたいです。
- 内藤委員 学校訪問で気付いたのですが、先生（ベテランや若手に関係なく）により子ども達が引き込まれ集中できる授業やそうでない授業が見られました。それは ICT の活用によるものもありますが板書にあるのではないかと推測しています。各学校で授業レベルが一定の水準になるように取り組み、違いはありますが、義務教育において地域や学校やクラスで格差とならないように気を付けて欲しいです。学力向上に取り組むことは良いことですが、取りこぼしのない取り組みにより底上げされた結果、全体の平均点の向上にもなり得ます。格差が生じないカギは家庭内で勉強に向かうことかもしれません。
- 市長 学力テストの際でも朝食の有無との相関性を問われています。家庭の状況は多種多様になっている状況で、確かな学力の保証を学校だけの責任で解決することはできませんが、その保証に対する学校の取り組みは課題となっています。また、子ども達からは宿題を減らしたいと直接言われたこともあります。宿題の出し方もありますが、子ども達が宿題を取り組んでみようとその気になることが学ぶことに喜びを感じる突破口になるかもしれません。放課後の家庭内学習といった家庭内の生活習慣と成績に相関関係があるかもしれませんが、学校が個々の家庭生活に口を挟むわけにはいかないところもあります。そうした状況であっても、家庭の事情により子ども達の可能性を潰してはなりませんから、市長部局と教育委員会が力を併せて学校での勉強を支える仕組みを考え行動していきたいです。

(3) 今後の課題

○学力向上と超過勤務縮減について

- ・授業時間外に何に費やしているか
- ・事務処理を簡便化して子供たちと対応できる時間が必要ではないか（ICT もツール）

【委員の意見】

市長 市役所内では超過勤務時間を減らすために ICT 機器の導入等の施策により一人当たりの生産性を上げるよう取り組んでいます。各学校において超過勤務時間の縮減が見られるとの説明がありました。説明のとおり縮減しつつも超過勤務時間があるのであれば、超過勤務時間を減らすための道具や制度のアイデアがあればしっかり検討しなくてはなりません。超過勤務時間を減らし先生が子ども達と対面する時間を増やすことは重要な柱となりますので、教育委員会でその様なアイデアを取りまとめてほしいです。

阿部委員 小学校での保護者対応に要する時間の多さにより超過勤務時間が生じているのであれば、私たちの努力では難しいところがあります。学校訪問をした際の説明で、中高学年向けの理科の専任の先生を設置したところ超過勤務時間が減少したとのことでした。他の学校でも専任制を採用し市内全体で展開するのはどうでしょうか。また、先日「福岡県市町村教育委員会教育委員研修会」に参加し、テーマは「中学校の部活動の地域との連携や地域への移行について」でした。中学校の先生は部活が終わってから授業の準備をすることになり負担が大きいです。今後のことを見据え、部活動の地域移行を考えることが先生達にとって一番の働き方改革になるのではと思います。

石松課長 専科制度について説明します。英語は県の予算措置により専科で授業を行っています。小学校高学年の音楽は市の予算措置により行っています。専科制度は現在の学校の定員では難しいところがありますが、予算次第で充実させていきたいと思っています。

市長 専科制度は全学校で取り組まれているのでしょうか。

林管理主事 音楽専科は市の予算措置により 3 名配置し、全小学校で行っています。英語専科は県の予算措置により常勤 1 名と非常勤 1 名を配置しています。常勤は 3 校を均等に巡回して授業を行い、非常勤は 3 校へ週 1 日授業を行っています。

市長 部活動の地域移行はどのような取組になっていますか。

林管理主事 昨年度から、各中学校長、文化・スポーツ推進課及び学校教育課で移行の検討を始めました。先日も県の研修会に参加し先進事例を聞くなど、今後に向けて取り組んでいます。今年度に方向性を定め、来年度から移行に向けて計画を立てていく予定です。

篠田委員 教育支援ソフトの活用により先生達が教材研究に便利になり製作時間を削減することができる一方で、先生の個性が画一化されてしまうことを懸念しています。これは活用に関するととても難しい問題だと思います。先生が教材に個性を出そうとすると時間を要してしまうため、教育支援ソフトの活用には割り切ることも必要かもしれません。先ほどの意見でもありましたが、専科の先生の配置と部活動の移行の推進は働き方改革を実現するために考えていくのが良いと思います。また、現場の先生方は何らかの意見を持っていますから参考までに聞き取る機会があればよいと思います。

市長 制度として先生から提案を直接聞く機会がありますか、それとも管理者である学校長を通して提案を聞くことになりますか。

石松課長 各学校へは校長会を通じて情報を提供しています。各学校に設置している超過勤務時間を削減するための委員会などから出てきた意見を教育委員会で集約した上で協議し、各校で共通して実行できそうなものを共有しています。

市長 先生一人一人の個性が輝くような教え方があって、その個性と個性がぶつかって良い結果が出るといいのですが…。私たちもどうしても上意下達で管理する方向になってしまっています。

中野委員 保護者対応や放課後の生徒指導は先生が一番頭と心を悩ませるところでしょう。スクールカウンセラーの配置状況を教えてください。

林管理主事 スクールカウンセラーは県の予算措置で、各中学校に週1回の35週、各小学校へ学期毎に1回を配置しています。直方第二中学校には週5日常駐の配置です。小学校では、各中学校区に配置されているスクールカウンセラーに相談することもできます。また、スクールカウンセラー・スーパーバイザーの派遣について、県の予算措置により、各小中学校が年2回依頼できます。

中野委員 今の子ども達に起こっていることを対応するのにスクールカウンセラーの数が圧倒的に少ないです。不登校生の数も増えており、先生達だけでは対応が難しいでしょう。担任の先生が関わることも必要ですが、スクールカウンセラーの採用数を増やし先生達と情報を共有して対応することで学校が安心できる場所になるでしょう。もちろん採用するには予算が必要なことは十分承知しています。

教育長 スクールカウンセラーは県の予算措置により配置しています。それと別で市の予算措置により教育委員会に 1 名を配置しています。それでも足りているとは言えない状況です。

市長 スクールカウンセラーによる忙しさを感覚的に判断するにあたり、相談件数の量とそ生徒指導の中身をデータの的に示し量と質の問題に整理して可視化すればどのように解決できるか議論できるようになりますので、教育委員会にその整理をお願いしたいです。

内藤委員 明るくまじめな人でも、月曜日になるといきなり出てこれなくなる場合があります。先生ならあれもこれもやって当たり前と思っていたところもありますが、時代が変わってきたのかと思いますので、私たちの対応も切り替えて考えなくてはいけないのではないのでしょうか。今まで先生がやった方が良くと思っていたことを、「教員免許を持っている人」と「もっていない人（例えば、スクールカウンセラーやアドバイザー）」がすべき仕事を仕分けしたほうがよいと思います。一方で、篠田委員より先生の個性を出す話がありましたが、仕事を仕分ける考え方とは全く異なる次元の話になります。子ども達が理解できるための準備に対し、労働時間管理の概念で先生を縛ることができないでしょうし、先生もその準備に対し努力することを残業とっていないのではないかと思います。難しいところではありますが、十分な仕事の仕分けと必要な人材を充てることで超過時間勤務の多くを削減できるところもあるのではないかと思います。

市長 市長部局と教育委員会で連携しながらサポートできるところはしっかりやり、教育委員会の中で仕事の仕分けをしながら超過時間勤務の削減を進めていきたいです。そして、先生たちが健康で明るく子供たちに接することができることが極めて重要と考えています。市役所も相談制度を設けているのですが、職員のメンタルの状況が見えず、職員が突然休んでしまうことや辞表を提出することがあります。世代の違いも踏まえながら職場の風土を改善していま

すが、効果が出ていないところもあります。先生達が笑顔で子ども達と接して働けるようにできることは市長部局としての課題でもありますので、教育委員会からの様々な問題提起を踏まえて少しでも環境が改善できるように取り組みたいです。

教育長 教育委員の皆様とも意見交換し、図書館の取扱い等の新鮮な意見がありました。学校現場は若手の教員が増えたり ICT 機器が導入されたりして過渡期に入っています。ICT 機器を使用すれば仕事が便利になる一方で、その使い方を覚えるのに時間を要しています。また、国の動きであり直方市も同様に向かっていますが、部活動も今までは当たり前のように学校で行っていましたが地域へ移行しようとしています。このように教育現場では様々な動きがあり、その対応に時間を要する事態となっています。皆様の知恵を借りながら進めていきたいと思いますのでご支援よろしくお願いします。ありがとうございました。

市長 未来を拓くという意味で、学校以外でも子供たちに様々な体験をさせるため、かつて小中学生から選抜してオーストラリアなどの海外と交換留学を行っていた時代がありました。今は、直方西小学校で九州大学とフィンランドの大学と共にアントレプレナーシップ教育を実験的に行っています。教育委員会と相談の上ですが、小中学生が海外経験等で何らかを体験し、それを定例化できる仕組みをつくりたいということが私の夢です。教室の中だけでなくグローバルな体験をさせることが子ども達の生きる力になればよいと考え、今後も皆さまの知恵をお借りしたいです。本日はありがとうございました。

○次回開催について

開催なし

5. 閉会

上記のとおり、直方市総合教育会議運営要綱第 9 条の規定により会議録を作成した。

この会議録は、会議の要旨に相違ないことを証する。

令和5年12月20日

直方市長 大塚 進弘